

説明的な文章や情報を読み解く力の育成を目指す指導法の研究

沖縄県金武町立嘉芸小学校 東盛麻里

1 はじめに

ここ数年の社会情勢、私達を取り巻く環境は、これまで経験したことのないことの連続で、「当然」や「慣例」が通用しないことがどれほど多いかを思い知らされた感がある。今年度に入ってから数年前の状況に戻りつつあることを感じながらも、不測の事態に対応し得る力の育成について考える機会が多くなった。教師がお膳立てした学習を期待通りにやり抜く子どもを育てるのではなく、何を学ぶのか、なぜ学ぶのか、学んだことをどう生かしていくのかなど、学習に対して主体的に関わり、自分事として学びを捉えることができるような児童を育成していかなければならない。そう考えた時、全国小学校国語研究所の研究主題である『「生きて働く読解力」の育成を目指す指導法の研究 ～目的をもって、情報を関連付けて読み、考えをまとめる力を育てる授業づくり～』は、学習に対して主体的に関わり、目的をもって学び、学んだことを生活に生かすという点で、今まさに求められる力だと考える。

国語科で学習した力を他教科での学びの基盤とするとともに、実生活、生涯にわたって活用できる力の育成を目指して、授業づくり・授業改善に取り組んでいくこととする。

2 実践事例

(1) 単元名 説明の仕方の特徴をとらえ、主張文の記述に生かそう

(2) 単元について

『ひろがる言葉 小学国語6上』（教育出版）に、「雪は新しいエネルギー」という教材文がある。地球温暖化やその原因となる化石エネルギー問題を提示し、雪エネルギー利用による問題解決を主張する文章である。

6年生の児童、特に雪に馴染みのない沖縄県の児童にとって、雪をエネルギーとして活用するという事例は驚きとともに、イメージすることが難しいことである。教科書では、筆者の主張を根拠となる事例を整理しながら読み、筆者の説明の仕方やその意図を考えた上で、自分なりに考えたことを文章にまとめ感想を交流する言語活動が設定されている。

この教材を使って、児童に自分事として学びを捉え、主体的に学習を行うためにはどうしたらよいか考えた時、やはりそのままの学習展開では難しいと判断した。その理由は、言うまでもなく、自身の生活に関わりがない雪がエネルギーとして使われている事例が取り上げられているからである。化石燃料の使用による地球温暖化や異常気象といった問題については、理科の学習でも触れていることなので、再生可能エネルギーの重要性は理解できている。そこで、視点を「沖縄で利用可能な再生可能エネルギーは何か」におき、調べたことをもとに自分の考えを主張文にまとめるという単元構成にした。

(3) 単元目標

- 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 【知・技(2)イ】
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 【思・判・表C(1)ウ】
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【思・判・表B(1)ウ】
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

(4) 学習計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
一	1	1 単元の【めあて】と【ゴール】を確認し、学習の見通しをもつ。	・化石燃料、再生可能エネルギー、異常気象等の用語の意味を確認する。	○ゴールの姿を確認し、学びを自分事して捉えようとしているか。
二	2	2 教材文を読み解く。 (1)「氷室」「雪冷房」とは何かを読み取る。	・全文シートを活用して、正確な読みを目指す。	○それぞれの利用の仕方、利点などが読みとれているか。
				
<p>▲全文シートを活用して、文章と文章、文章と図等を結び付けながら読み深める。</p>				
	3	(2)筆者が雪エネルギーの利用を主張する意図を捉える。	・主張の根拠となる事例を整理しながら読ませる。	○化石燃料と再生可能エネルギーとを比較して主張を捉えているか。
	4	(3)雪エネルギーの可能性と課題について考える。	・筆者が利点だけでなく課題点も挙げていることの意図を考えさせたい。	○利点と問題点とを踏まえた上で考えをまとめているか。
	5	(4)筆者の主張の組み立て方や説明の仕方の特徴を探る。	・筆者が自身の主張を理解してもらうための手立てがあることに気づかせる。	○読み手に主張が伝わるよう工夫しているか、気づいているか。
三	6	3 沖縄で利用できそうな再生可能エネルギーについて考える。 (1)モデル文を読み、ゴールの姿を確認する。	・教師作成のモデル文を提示することで、ゴールの姿を可視化・明確化させる。	○自分事として課題を捉え、主体的に学ぼうとしているか。 ○ゴールの姿をイメージできているか。
<p>モデル文 洋上風力発電をこころ、沖縄にも 世界に誇れるきれいな海と手つかずの自然が残る山原の山々。自然豊かなこの地には、自然由来の再生可能エネルギーが大いにありそうだが、実は全国で最も再生可能エネルギーの利用率が低い。電源に占める再生可能エネルギーの比率は、全国で唯一、一割に満たないのが現状である。 その原因の一つに、沖縄の面積の小ささがある。太陽光や風力による発電もありはするものの、圧倒的に場所が不足している。四方を海に囲まれたこの島では、風力が最大の武器になりそうだが、風車を建てる場所がないという。そこで、土地不足という課題を解決するために洋上風力発電が活用できるのではないだろうか。 まず、風力発電とは、風の運動エネルギーを風車のプロペラで回転させ、エネルギーに変えて発電機を回すことで発電する仕組みとなっている。みなさんも下のような風車を、ご覧になったことがあるだろう。沿岸部や山岳部の風の条件がよいところには、すでに風車が設置されており、これ以上建てる場所がないのが現状である。 そこで、風車を洋上つまり海に建て、風力のエネルギーを活用しようという実験が日本でも行われている。風は陸上よりも洋上の方が強く、安定的に吹いているので、利点となり得る。海に囲まれた沖縄にとっては、大いに可能性が広がるように感じられる。 しかし、ここにも課題はある。今ある風車と比べると、建設コストが高いということだ。離島や沖縄では中小企業が経済を支えており、コストの問題はかなりのハードルとなる。それでも、沖縄の地理的環境を考えると、洋上風力発電もたまたま利益の方が大きいと私は考える。国からの支援を受けることで課題を解決させ、こころでも再生可能エネルギーの利用を進めていきたいものである。</p>				

7	(2)情報を収集する。	・Chromebook を活用して、情報を収集させる。	○必要な情報を収集しているか。
8	(3)主張文の構成について考える。	・目的に応じて、複数の情報を比較・関連付けて読んだ上で、文章の構成を考えさせるようにする。	○これまで収集した情報を整理・活用しながら、文章の構成を考えているか。
9	4 主張文を書く。 ※Chromebookで入力するか、用紙に記述か各自で選択。	・収集した情報をもとに、明確に自分の考えを記述させるようにする。	○筆者の説明の仕方を参考にしながら、主張文を記述しているか。
10	5 書いた主張文を交流し、学習のまとめをする。	・主張したいことを正確に発信したり、互いの考えを共有させたりして、深い学びを目指す。	○単元全体を通してどのような力が身についたか意識しながら学習を振り返っているか。

(5)授業の実際 (8/10時)

1 本時のねらい

収集した情報をもとに、主張文の構成について考える。	評価方法 ノート、観察
---------------------------	----------------

2 めあて、まとめ、振り返り

(まとめ) ①現状・課題 ②解決のために利用したいエネルギー ③問題点と今後 の柱で文章を構成したらよい。	(めあて) 主張文の構成について考えよう。
---	--------------------------

← 正対 →

(振り返り)
・媚山さんの記述を参考にして、大きな問いを「始め」に書き、解決のために使いたいエネルギーについては「中」に書くことに決まった。主張文を書くことが楽しんだ。
・構成を考えることが難しかったので、友達の構成表を見せてもらって、どうにか書けた。

3 本時の展開

[導入]…10分

- 前時の学習を振り返る。
- 本時のめあてを確認する。
【めあて】主張文の構成について考えよう。

[展開]…30分

- 構成表の書き方を確認する。
※授業者作成の構成表を提示して書き方を確認。
- 構成表を書く。
※支援が必要な児童へ適切に支援する。

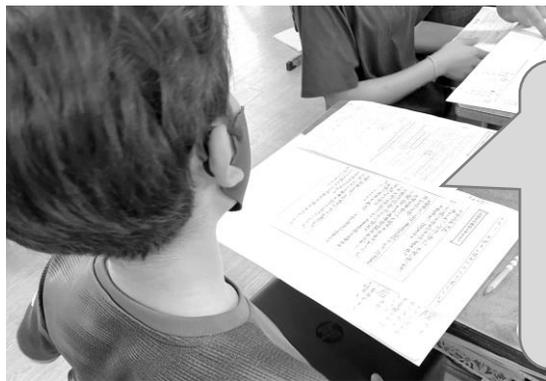
毎時間、学習の〈振り返り〉を Google Classroom のシートに入力して送信。授業後にそれを確認し、次時の学びへ繋げたい〈振り返り〉を取り上げ、児童主体の学習展開を目指す。

〈学習のゴール〉に対する位置づけを意識させ学習の意義を捉えさせる。

自分の考えを明確に発信できる主張文になるには、どう構成したらよいか考えさせる。

Jamboard で共有した情報をもとにする。



完成した構成表を見ながら、明確な主張ができそうか検討している様子。



Google Classroomのシートに〈振り返り〉を入力。次時の学習へ繋げる。

[終末]…5分

- 5 本時の学習を振りかえる。
※視点は、「構成表を作成しての気付いたこと」。
- 6 次時の予告をする。
※「主張文の書き出しについて考えること」を家庭学習として課す。

授業と家庭学習との連動を図る。

4 板書レイアウト等



▲板書の実際。教師作成の主張文及び構成表を学習のモデルとして提示し、個々の学びの手立てとして活用。

(6) 研究の成果と今後の課題

児童は、第一次の学習において教材文との出会いから「化石燃料を利用することによる悪い影響」について知り、「再生可能エネルギーを活用することによる問題解決が必要」という現在の課題を捉えた。そして、第二次からの学習において、その一例として雪エネルギーの存在を知り、その有用性を読み解くことができた。全文シートを活用することで、情報と情報とを関連付けて読み進めた結果であると考えられる。また、読み解く段階で、筆者の主張の仕方の工夫について気づかせるようにし、自身の主張文記述の際のヒントになるよう仕組んだ。

第三次では「沖縄で利用可能な再生可能エネルギーは何か」という目的をもって学習に向かわせるようにした。自分達の将来・未来のために何が出来るか主張文にまとめるという学習展開は、児童の主体的な学びを引き出し、結果的に説明的な文章や情報を読み解く力の育成や、複数の情報を関連付けて読む力の育成に繋がったと考える。

今後は、考えをまとめる力を育てることに指導の重点をおいた授業を仕組み、「生きて働く読解力」の育成を目指した授業づくり・授業実践を行っていきたい。

(7) 参考文献

- ・『小学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省）
- ・『ひろがる言葉 小学国語 六上 解説・展開編』（教育出版）